

亥の年 新時代の社会に通じる子供たちの育成を目指して

新年明けましておめでとうございます。正月三が日は、天候に恵まれ、平成時代最後の正月を穏やかに迎えられた方も多かったことと思います。去年は、本校にとってスポーツ、文化面等、多くの生徒がそれぞれの得意分野で活躍をし、生徒会スローガンである「狭山一の学校にしよう」に一步近づき、学校としても飛躍した一年でした。また正月にケーブルテレビで放送された、狭山市綱引き大会では、快勝した三年生のパワーから勇気と感動を与えられ、改めて若い力と新時代を築く子供たちに期待を馳せる思いを抱きました。三年生は、いよいよ受験本番となりますが、時節柄、健康にはくれぐれもご留意なされ全員の進路が決定することを祈っています。

さて、新年号である時代は、どんな時代となるのでしょうか。平成時代は、多くの災害に見舞われ失ったものも多くありましたが、技術の進歩や国際化は加速度的に進展していきました。また度重なる震災や災害等では、人と人との絆や善意を感じ、心温まる光景を見聞きすることもありました。これらは、地道に積み上げられた学校や家庭での教育の成果が成せたことだと思えます。かつて教育界では、不易と流行が話題となりました。この言葉は、俳人である芭蕉が提起したものと言われています。「不易」は時代の新古を超越して不変なるもの、「流行」はそのときどきに依じて変化してゆくものを意味しますが、両者は本質的に対立するものではなく、真に「流行」を得ればおのずから「不易」を生じ、また真に「不易」に徹すればそのまま「流行」を生ずるものだと考えられています。

新時代(新年号)は、AI時代、グローバル化が加速度的に進歩します。そしてその時代の中核となるのは、今の中高校生です。不易なものや流行のバランス感覚を身に付け、国際社会に通じる日本人としてのアイデンティティを備えた大人になっていただきたいと願います。中学校では、新学習指導要領完全実施の先行として、4月から道徳が教科化になります。本校では、昨年引き続き道徳教育の研究を深め、改めて子供たちの豊かな心の育成のために授業や諸活動を見直していきたいと思えます。去年は、生徒会を中心に感謝の心を育ててきました。また情報モラルについても講演会や学級指導等を通じて生徒、保護者と共に考えてきました。今年も、それを継承する共に社会に通じる大人になるために、中学生として何を身につけていくかを子供たちの実態に合わせて精査し、本校の特色を生かした取組等を実践していきたいと思えます。

そのためには、学校評価等でいただいた意見等を謙虚に受け止め、教職員、保護者、地域が連携をして子供たちの健全育成のため誠心誠意努力していきたいと思えます。

本年もよろしくお願ひいたします。

